ディスクシュレッダー4

梱包リスト 取扱説明書 ソフトウェア使用条件

『ディスクシュレッダー4』は、ハードディスク全体に書き込みを行い、格納されているデータ、OS、プログラムなどすべてを完全に消去するソフトウェアです。本ソフトウェアは、安全に管理し、悪用されたり誤使用されたりしないように十分にご注意ください。

- 『ソフトウェア使用条件』に同意していただいたうえで、フロッピーディスク、またはCD-ROM の梱包を開封してください。
- 『取扱説明書』の説明に従って、本ソフトウェアの利用を開始してください。

この文書は、『ディスクシュレッダー4・スーパー』『ディスクシュレッダー4・スタンダード』『ディスクシュレッダー4・ライト』『ディスクシュレッダー4・XP』(合わせて『ディスクシュレッダー4』と呼びます)の【CD-ROM 版】および【フロッピーディスク版】に対する共通の説明書です。これらの製品間で差異のある部分については、その都度説明しています。

梱包リスト 【CD-ROM 版の場合】

1. 『ディスクシュレッダー4 取扱説明書』 本小冊子の P.3～P.11
2. 『ディスクシュレッダー4 ソフトウェア使用条件』 本小冊子の P.13～P.16
3. CD-ROM
4. ユーザー登録番号シール

   ユーザー登録番号と年月が記載されています。ユーザーサポートを受けるために必要となるものです。CD-ROM ケースなど目立つ場所に貼ってご利用ください。

   ✧**CD-ROM 自体には絶対に貼らないでください。ドライブを破損する恐れがあります。**

梱包リスト 【フロッピーディスク版の場合】

1. 『ディスクシュレッダー4 取扱説明書』 本小冊子の P.3～P.11
2. 『ディスクシュレッダー4 ソフトウェア使用条件』 本小冊子の P.13～P.16
3. フロッピーディスク《3.5″ -2HD (1.44MB)》

   ラベルにはユーザー登録番号と年月が記載されています。ユーザーサポートを受けるために必要となるものです。

以上

ディスクシュレッダー4 取扱説明書

『ディスクシュレッダー4』は、ハードディスク全体に書き込みを行い、格納されているデータ、OS、プログラムなどすべてを完全に消去するソフトウェアです。本ソフトウェアは、安全に管理し、悪用されたり誤使用されたりしないように十分にご注意ください。

この文書は、『ディスクシュレッダー4・スーパー』『ディスクシュレッダー4・スタンダード』『ディスクシュレッダー4・ライト』『ディスクシュレッダー4・XP』(合わせて『ディスクシュレッダー4』と呼びます)の【CD-ROM 版】および【フロッピーディスク版】に対する共通の取扱説明書です。これらの製品間で差異のある部分については、その都度説明しています。

1 動作条件と消去対象ハードディスク

『ディスクシュレッダー4』の動作条件および消去対象となるハードディスクの仕様は、以下の通りです。

◆ディスクシュレッダー4の動作条件

●PC/AT 互換機(DOS/V パソコン)

†Macintosh、PC-9800 シリーズ、FM-R シリーズ等には対応しておりません。

†特殊な周辺機器が接続されている場合や、BIOS の設定が特殊な場合には、正常に動作しない場合があります。また、起動あるいはデータ消去のために、BIOS 設定の変更を要する場合があります。

†ディスクシュレッダー4の動作には、パソコンの BIOS やブート方式、チップセット(ハードディスクのコントローラ)、ハードディスクの種類などへの依存性があり、すべての機種での動作を保証しているわけではありませんのでご注意ください。

●Intel Core i3/5/7、Core 2、Core、Atom、Pentium、Celeron、486SX/DX プロセッサ(互換 CPU 含む)

●16M バイト以上のメモリ

●日本語または英語キーボード (※マウスは不要)

●VGA(640×480 ドット)仕様以上のグラフィック機能

●システム起動に対応した CD-ROM または FD ドライブ(内蔵または USB 接続)

†SCSI や IEEE1394(i.LINK)接続の CD-ROM ドライブは非対応です。

◆消去対象ハードディスク

●IDE、EIDE(パラレル ATA)タイプ、シリアル ATA タイプのハードディスク

†137GB 以上の容量を持つハードディスク(ビッグドライブ)にも対応しています。容量の上限は1TBです。

†ハードディスクの区画(パーティション)の設定やファイル形式は問いません。

†インストールされている OS(Windows、DOS、Linux、超漢字など)の種別は問いません。また、OS がインストールされていなくてもかまいません。

†『ディスクシュレッダー4』を実行するパソコンで消去できるハードディスクは、IDE タイプとシリアル ATA タイプを合わせて8台までです。9台目以降のハードディスクは消去対象となりません。

†SCSI や特殊 IDE アダプタ接続のハードディスクは消去できません。

†USB 接続のハードディスクや外付けハードディスクは消去対象となりません。

†RAID、SSD(Solid State Drive)には対応しておりません。

2 操作方法

① ハードディスクの内容を消去したいパソコンに、ディスクシュレッダー4のフロッピーディスク(FD)、または CD-ROM をセットし、電源オンまたは再起動します。

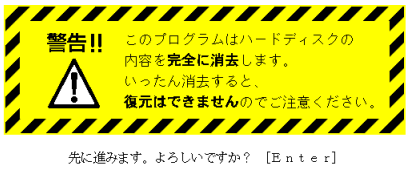
†フロッピーディスクの場合は、書き込み禁止(穴が開いている状態)でお使いください。

†ノートパソコンの場合は、消去処理中にバッテリー切れが起こらないように、必ず AC 電源を接続してください。

② ディスクシュレッダー4が起動した後、警告画面が表示されます。

†起動しない場合は P.10 をご覧ください。

起動画面



警告画面

③ [Enter]キーを押して、先に進みます。

†[Enter]以外のキーを押すと、操作を中断できます。

④ 『ディスクシュレッダー4・スタンダード』、『ディスクシュレッダー4・スーパー』、『ディスクシュレッダー4・XP』では、消去方式を指定する画面が表示されますので、消去方式を示す1文字のキーを押して消去方式を指定してください。なお、『ディスクシュレッダー4・ライト』の場合は、この画面はありません。そのまま次の⑤に進みます。

†各消去方式の詳細は、P.6をご覧ください。製品により選択可能な消去方式および画面は異なります。

†消去方式の指定をすると、消去にかかる時間の見積もりを開始します。見積もりのため、ハードディスクに対してデータの書き込みを行ないますので、見積もりの途中でパソコンの電源を切らないようにご注意ください。

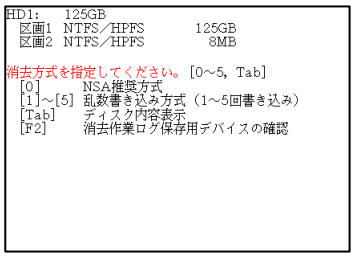
†[Enter]キーを押すと、[1]キーを押した場合と同じ意味になります。

†[Tab]キーを押すと、ディスク内容を表示できます(P.7)。

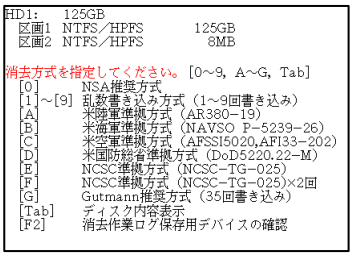
†データ消去記録(消去作業ログ)保存用の USB ストレージを接続した状態で[F2]キーを押すと、データ消去後のログの保存に使用できるデバイスを確認できます。消去作業ログを保存する場合は、消去処理を実行する前に、USB ストレージの接続と確認をしておくことをお勧めします(P.8)。

†[Ctrl]キー+[Alt]キー+[x]キーの3つのキーを同時に押すと、処理を中断して終了します。[Ctrl]キー+[Alt]キー+[DEL]キーを同時に押した場合も同じです。

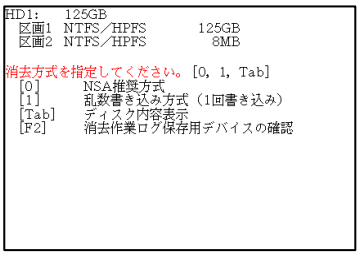
†ハードディスク数が5台以上で、ディスク情報の表示が多くなった場合には、区画情報の表示を行いません。



ディスクシュレッダー4・スタンダードの消去方式選択画面



ディスクシュレッダー4・スーパーの消去方式選択画面

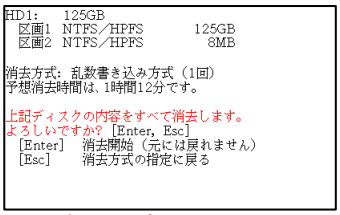


ディスクシュレッダー4・XP の消去方式選択画面

⑤ 消去にかかる時間の見積り(予想消去時間)を表示した後、本当に消去してよいかを確認するメッセージが表示されます。消去してよいことを再度確認して[Enter]キーを押します。

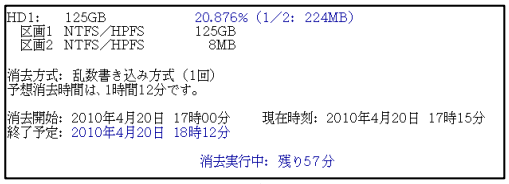
†ここで[Enter]キーを押すと、ただちに消去が始まります。取消やデータの復元はできませんので、十分に確認してください。

†[Enter]、[Esc]以外のキーを押すと、操作を中断できます。



予想消去時間の表示画面

データ消去が始まった後、消去処理中には以下の情報を表示します。



消去処理中の画面

P%（n／m：xMB）
- P: 全体の進捗状況
- n: 現在実行中の書き込み回数
- m: 総書き込み回数(検証は最後の回に含まれる)
- x: 現在までに処理した容量(各書き込み回数ごと)

†予想消去時間と終了予定日時は目安とお考えください。予想消去時間は、ハードディスクへの読み書きを実際に行い、その所要時間から算出していますが、いろいろな要因で一定しない場合があり、実際の消去時間と大きくずれることがあります。特に、2台以上のハードディスクが接続されている場合には、時間のずれが大きくなります。また、実際の消去時間は、パソコンやハードディスクの性能、ハードディスクの接続形態等に依存して変化します。

†データ消去作業の進捗により、終了予定日時などの表示も変動します。

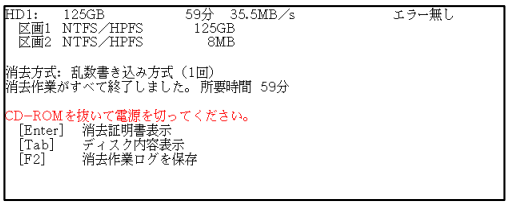
†消去時間の見積り中やデータ消去の実行中にハードディスクの不良セクタ(読み書き時にエラーの発生する場所)が見つかった場合には、そのハードディスクに★印を表示します。この場合、予想消去時間の精度が落ちたり、消去時間が大幅に長くなったりすることがあります。

†パソコン内蔵の電池の消耗などにより、日時の表示が狂っている場合があります。日時のズレは消去作業自体には影響ありませんが、その後表示される終了予定日時や消去証明書の画面に表示される日時、消去ログに記録される日時も狂ったままとなります。日時を修正したい場合は、一旦パソコンの電源を落としてから BIOS 設定画面などを利用して日時の修正を行ってください。

⑥ データ消去が終わると、終了報告の画面が表示されます。
消去証明書の画面表示が不要な場合は、この時点でFDやCD-ROMを抜いて電源を切ります。消去証明書を表示したい場合は、[Enter]キーを押します。

†[Tab]キーを押すと、ディスク内容を表示できます(P.7)。

†『ディスクシュレッダー4・スタンダード』、『ディスクシュレッダー4・スーパー』、『ディスクシュレッダー4・XP』では、USB ストレージを接続した状態で[F2]キーを押すことにより、データ消去記録(消去作業ログ)をファイルに保存できます(P.8)。



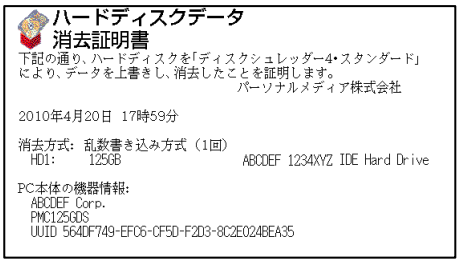
終了報告の画面

⑦ 消去証明書の画面表示は、パソコンと一緒にデジタルカメラで撮影していただくなどの方法により、記録や証明書としてご利用いただけます。終了後は、FD や CD-ROM を抜いて電源を切ります。

†消去証明書の日時を正確に表示するには、事前にパソコンに正しい時刻が設定されている必要があります。

†画面に表示された消去証明書を印刷したりファイルに保存したりすることはできません。『ディスクシュレッダー4・スタンダード』、『ディスクシュレッダー4・スーパー』、『ディスクシュレッダー4・XP』において、消去の記録をファイルに保存したい場合は、USB ストレージへの消去作業ログ保存機能をご利用ください(P.8)。

†[Esc]キーを押すと、終了報告の画面(⑥)に戻ります。



消去証明書の画面表示

3 消去方式の詳細

『ディスクシュレッダー4・スーパー』では、以下のすべての消去方式を選択できます。また、『ディスクシュレッダー4・スタンダード』では、以下の「NSA 推奨方式」および「乱数書き込み方式」(1～5回)を選択できます。

『ディスクシュレッダー4・ライト』の消去方式は、標準では「乱数1回書き込み」に固定されています。そのほかの消去方式に固定されている場合、メディアに消去方式が明記されています。

『ディスクシュレッダー4・XP』の消去方式は、以下の「NSA 推奨方式」および「乱数書き込み方式」(1回)を選択できます。

	消去方式	書込回数	書込値
[0]	NSA 推奨方式	3	乱数→乱数→0x00
[1]～[9]	乱数書き込み方式	1～9	乱数→…→乱数
[A]	米陸軍準拠方式 (AR380-19)	3	乱数→0x14→0xEB
[B]	米海軍準拠方式 (NAVSO P-5239-26)	3	0xEB→0x14→0x5C→検証
[C]	米空軍準拠方式 (AFSSI5020, AFI33-202)	7	0x00→0xFF→0xEB→0x14→0x35→0xCA→0x61→検証
[D]	米国防総省準拠方式 (DoD5220.22-M)	3	0xEB→0x14→乱数→検証
[E]	NCSC 準拠方式 (NCSC-TG-025)	3	0x35→0xCA→0x97
[F]	NCSC 準拠方式 (NCSC-TG-025)×2 回	6	0xEB→0x14→0x5C→0x35→0xCA→0x97
[G]	Gutmann 推奨方式	35	乱数→乱数→乱数→乱数→0x55→0xAA→(0x92 0x49 0x24)→(0x49 0x24 0x92)→(0x24 0x92 0x49)→0x00→0x11→0x22→0x33→0x44→0x55→0x66→0x77→0x88→0x99→0xAA→0xBB→0xCC→0xDD→0xEE→0xFF→(0x92 0x49 0x24)→(0x49 0x24 0x92)→(0x24 0x92 0x49)→(0x6D 0xB6 0xDB)→(0xB6 0xDB 0x6D)→(0xDB 0x6D 0xB6)→乱数→乱数→乱数→乱数

※ 16進数表記。(xx xx xx) は、3バイトシーケンスの書き込みパターンです。

※ 検証は、最後の書込処理の時に行います。たとえば[D]の場合、書込回数は3回で、最後の3回目に書込と検証を行います。

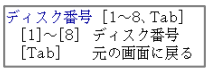
※ いずれの消去方式の場合も、ハードディスクのブロック0(マスターブートレコード)は、消去終了後に0クリアします。このため、データ消去したハードディスクを再利用する際は区画が存在しない状態となります。

4 ディスク内容を確認する

データ消去前と消去後のいずれの時点においても、ハードディスクの内容を表示させることができます。消去前と消去後を比較することにより、正しく消去されていることを確認できます。

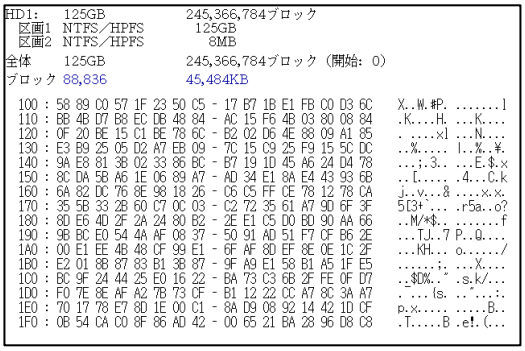
① 消去方式を選ぶ画面あるいは終了画面において、[Tab]キーを押します。

② 複数のハードディスクが接続されている場合は、ディスク番号を入力する画面に移ります。内容を確認したいディスクの番号に対応した[1]～[8]のキーを押します。



③ ハードディスク内に区画が設定されている場合は、区画番号を入力する画面に移ります。以下のキーを押します。
[1]～[4] :区画1～区画4を指定します。この場合、次の④では区画内の相対ブロック番号を指定します。
[Enter] :ディスク全体を指定します。この場合、次の④ではディスク全体に対する絶対ブロック番号を指定します。
†「ディスクシュレッダー2」の区画番号は「0」から始まりましたが、「ディスクシュレッダー3」「ディスクシュレッダー4」の区画番号は「1」から始まりますのでご注意ください。

④ ブロック番号を入力する画面に移ります。ブロック番号を入力し、[Enter]キーを押します。
ディスク内容が256バイト単位で表示されます。左側が16進数表示、右側が ASCII 表示です。
画面例では、ディスク全体の総ブロック数が245,366,784となっています。ブロック番号は「0」から始まりますので、0～245,366,783の番号が入力可能です。



ここでは以下のキー操作が可能です。

[↑]／[P]	前へ(256 バイト戻る)	[Ctrl]+[→]／[Ctrl+[F]	128 ブロック(64KB)進む
[↓]／[N]／[空白]	次へ(256 バイト進む)	[Ctrl]+[←]／[Ctrl]+[B]	128 ブロック(64KB)戻る
[→]／[F]	16 ブロック(8KB)進む	[Alt]+[→]／[Alt]+[F]	2048 ブロック(1MB)進む
[←]／[B]	16 ブロック(8KB)戻る	[Alt]+[←]／[Alt]+[B]	2048 ブロック(1MB)戻る

⑤ [Tab]キーを押します。元の画面に戻ります。

5 データ消去記録を USB ストレージに保存する

『ディスクシュレッダー4・スタンダード』、『ディスクシュレッダー4・スーパー』、『ディスクシュレッダー4・XP』では、データ消去後にデータ消去の記録(消去作業ログ)をテキスト形式で USB ストレージ(USB メモリ等)に保存することができます。

†『ディスクシュレッダー4・ライト』には、この機能はありません。

あらかじめ Windows でフォーマット済みもしくは Windows で使用していた USB ストレージをご用意ください。
消去作業ログを保存する場合は、消去処理を実行する前に、以下の手順で USB ストレージの接続の確認をしておくことをお勧めします。

① 『ディスクシュレッダー4・スタンダード』、『ディスクシュレッダー4・スーパー』、『ディスクシュレッダー4・XP』を起動後、消去方式を指定する画面まで進みます(→P.4 の④)。

② USB ストレージを接続し、[F2]キーを押します。
USB デバイスを検索した後、「USB ストレージをログの保存に使用します。」というメッセージが表示されます。このメッセージを確認した後、消去方式を指定し、消去処理を開始します。

†ハードディスクの消去処理中は、USB ストレージが接続された状態でも取り外された状態でも構いません。

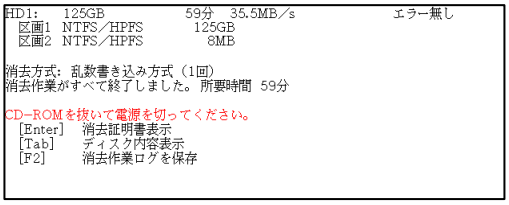
†USB ストレージが接続されていない場合や、フォーマットの異なる USB ストレージが接続されている場合は、「ログの保存に使用するデバイスが見つかりません。」というメッセージが表示されます。Windows でフォーマット済みの USB ストレージを用意して、再度接続してください。

†複数の USB ストレージが接続されている場合は、DS_LOG という名称のフォルダの中に DS_TAG というファイルを持つ USB ストレージを保存先とします(DS_TAG のファイルは、消去作業ログを保存する際に自動生成されます)。保存先の判断ができない場合には、「接続されたデバイスが多すぎます。」というメッセージが表示されますので、消去作業ログの保存に使用しない USB ストレージを取り外してください。

†再接続しても USB ストレージを認識しない場合は、[Enter]、[Esc]以外のキーを押して操作を中断し、一旦パソコンの電源を落としてから BIOS の設定などを確認してください。

†USB ストレージの内容は消去されません。

③ データ消去が終わると、終了報告の画面が表示されます(→P.5 の⑥)。



この画面が出た段階で、USB ストレージが接続されていることを再度確認し、[F2]キーを押します。
「USB ストレージに以下のログファイルを保存しました。」というメッセージに続いて、USB ストレージに保存された消去作業ログのファイル名が表示されます。消去作業ログのファイル名は次のような形式になっています。

＜機種名＞-＜UUID＞-＜日時情報＞.txt または ＜機種名＞-＜日時情報＞.txt

＜機種名＞: BIOS により得られる機種名(ProductName)に関する情報から、空白や記号類を除いたものです。最大32文字の英数字です。機種名に関して有効な情報が得られなかった場合は “DS_LOG” となります。

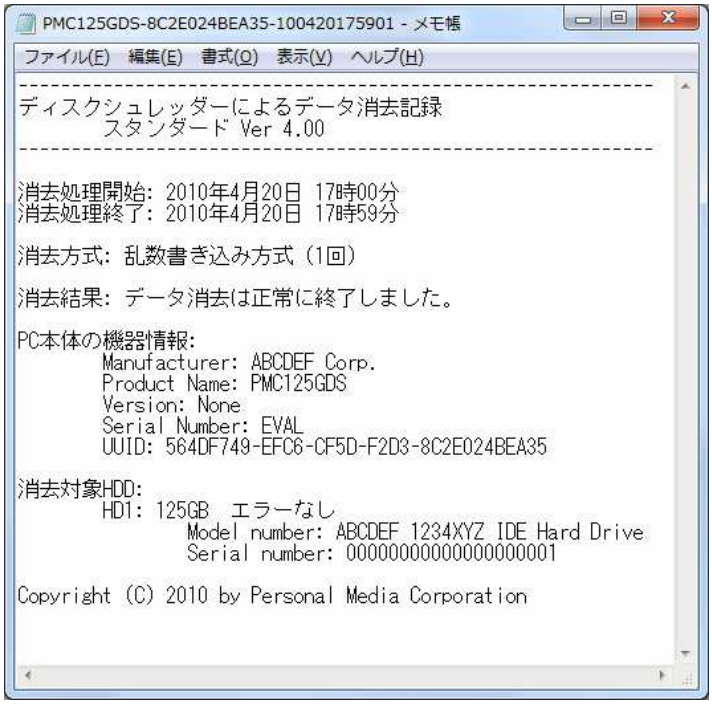
＜UUID＞: BIOS により得られる UUID の情報から、シリアル番号として有効と考えられる12桁の16進数を抽出したものです。有効な情報が得られなかった場合は、＜UUID＞の部分は付加されません。

＜日時情報＞: 消去を完了した日時(年月日および時分秒)の情報を、YYMMDDHHMMSS 形式の12桁の数字で表したものです。

たとえば、2010年4月20日17時59分01秒に P.6 ⑦のパソコンのハードディスクの消去が完了した場合、消去作業ログのファイル名は “PMC125GDS-8C2E024BEA35-100420175901.txt” のようになります。

†保存先の USB ストレージの DS_LOG フォルダの中に、既に同名のファイルが存在する場合は、＜日時情報＞ のあとに a, b, c, …, z の1文字が付加されます。
†USB ストレージが接続されていない場合、「ログの保存に使用するデバイスが見つかりません。」というメッセージが表示されます。Windows でフォーマット済みの USB ストレージを用意して、接続しなおしてください。
†保存先の USB ストレージ内に十分な空き領域がない等の理由により、消去作業ログの保存ができなかった場合には、「この USB ストレージにログを保存することはできません。」というメッセージが表示されます。別の USB ストレージを用意して、接続しなおしてください。

④ USB ストレージを Windows パソコンに接続し、消去作業ログの内容を確認します。
消去作業ログを保存した USB ストレージを別のパソコンのリムーバブルディスクとして接続し、この中を開くと、「DS_LOG」というフォルダの中に、③で表示されたファイル名を持つ消去作業ログのテキストファイルが保存されています。このファイルをメモ帳などのテキストエディタで開くと、保存された消去作業ログの内容を確認できます。



消去作業ログの内容

6 ご注意とトラブルシューティング

ディスクシュレッダーのウェブサイトでも、ご注意とトラブルシューティングの情報は常に更新しておりますので、あわせてご参照ください。

ユーザーサポート
http://www.disksh.com/ds/support.html

【データ消去作業の前、ディスクシュレッダー4の起動時】

ノートパソコンでは AC 電源をつなぐ

ノートパソコンのハードディスクの内容を消去する際は、消去処理中にバッテリー切れが起こらないように、必ず AC 電源を接続した状態で作業してください。

マウスを接続しない場合

ディスクシュレッダー4はマウスがなくても動作します。ただし、マウスを外すと正常に起動しないパソコンもあります。その場合は BIOS の再設定などを行ってください。

CD-ROM ドライブからディスクシュレッダー4が起動しない場合

BIOS 設定で、ハードディスクより先に CD-ROM からシステムが起動するように設定してください。
CD-ROM のセットが遅く、先にハードディスクから起動してしまうことがあります。
その場合、CD-ROM を入れたまま、起動してしまった Windows 等を再起動してください。

ディスクシュレッダー4が起動しない場合、消去対象となるハードディスクを認識しない場合

ディスクシュレッダー4 が起動しない場合は、BIOS の設定で起動ドライブを変更する必要があります。詳細は、ディスクシュレッダーのウェブサイトをご参照ください。

起動ドライブの設定方法
http://www.disksh.com/ds/bios_setup_boot.html

ディスクシュレッダーで消去対象となるハードディスクを認識しない場合は、BIOS 設定をご確認ください。ディスクや SATA 関連の項目が AHCI、RAID、SATA などになっている場合は、Compatible、IDE など他の設定に変更することにより動作する場合がありますので、お試しください。

USB 接続のフロッピーディスクドライブや CD-ROM ドライブを利用する場合

USB 接続でディスクシュレッダー4を起動するため、次のような BIOS 設定が必要となる場合があります。

Plug&Play O/S＝No ／ OS タイプ＝その他（Windows 以外の項目）／
Legacy USB Support＝Enabled

フロッピーディスクドライブや CD-ROM ドライブの状態が悪く、機能しない場合

長い間利用していないパソコンの場合、ドライブが正しく機能しないケースも考えられます。その際は、ドライブを交換するか、あるいは消去したいハードディスクを取り外し、ディスクシュレッダー4が正常に動作している他のパソコンに接続して処理する方法をご検討ください。

【データ消去作業中】

消去処理中に画面が消えてしまう

ノートパソコンなど電源管理機能を備えている機種の場合、消去処理中に画面表示が消えてしまうことがありますが、その場合でも処理は正しく継続しています。画面表示を復帰するには、何かのキーを押すなどしてください。（必要な操作は、パソコンの電源管理機能の仕様により異なります）

【データ消去作業終了後】

電源を切断できない場合

作業終了時に、電源スイッチを押しただけでは省電力状態に入ってしまい、完全に電源が切れない場合があります。その場合は、[Ctrl]キー+[Alt]キー+[x]キーの3つのキーを同時に押してください。または、電源ボタンを10秒くらい長押しすると電源が切れるパソコンもあります。

消去されたハードディスクを再利用したい場合

消去されたハードディスクを再利用したい場合、ハードディスクの区画作成とフォーマット作業、 OS の新規インストールが必要です。具体的な方法については、お使いのパソコンのマニュアル等をご覧ください。

【書き込みエラーの扱い】

- ハードディスクのハードウェア的不良(不良セクター等)などが原因で、書き込みエラーが発生した場合、予想消去時間の精度が落ちたり、実際の消去所要時間が増えたりします。

- 書き込みエラーが発生した場合は、何度もエラーとなって読み書き出来ないことを確認してから該当箇所をスキップして消去処理を続行し、エラーの累計サイズを画面の右上に表示します。書き込みエラーを起こした箇所の元データは十分に消去できていない可能性がありますので、ご注意ください。

7 ユーザーサポート

本製品は、ご購入から1年間、ユーザーサポートを行っております。本取扱説明書をご覧になっても解決できない問題がございましたら、下記までお問い合わせください。可能な限り、電子メール、FAX、郵送でのお問い合わせをお願いいたします。その際に、フロッピーディスクラベル、またはユーザー登録番号シールに記載 されている 1430－□□□□－□□□□の形式のユーザー登録番号をお伝えください。

◆ご利用に関するお問い合わせ

URL: http//www.disksh.com/ds/support.html
E-mail: support@personal-media.co.jp
FAX: 03-5759-8306, TEL: 03-5759-8304
（年末年始および夏季休暇、祝日を除く月～金 10:00～12:00、14:00～16:00）
郵送: 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-29-1 コイズミビル
パーソナルメディア株式会社 サポート担当宛

◆ユーザー登録内容(ご利用部署、住所など)の変更に関するご連絡

E-mail: change@personal-media.co.jp
FAX: 03-5759-8306
郵送: 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-29-1 コイズミビル
パーソナルメディア株式会社 登録内容変更係宛

【フロッピーディスク(FD)や CD-ROM などのメディアを破損した場合】

本製品の FD や CD-ROM を複製することはできません。FD や CD-ROM を損傷した場合、ご購入から一定期間中は上記サポート担当にて良品と交換いたします。詳細は付属の「ソフトウェア使用条件」をご覧ください。

参考情報: ソフトウェア以外の方法によるハードディスクのデータ抹消方法

米国防総省では、ハードディスクのハードウェア的不良が原因で、ソフトウェア的な上書きができないハードディスクの抹消方式として以下を掲げています。参考にしてください。

- デガウサー(消磁装置)で消磁する(事前の試験や規格にあった方法での処理が必要)
- 以下のような物理的・化学的方法で破壊する。
  (a)金属処分施設で処理する(溶解、粉砕等) (b)焼却 (c)内部のディスク表面をサンダーなどで削り取る (d)55～58%のヨウ化水素酸(HI)で内部のディスク表面を溶かす (非常に危険です。化学実験用の換気設備が必要で、十分な知識と技術のある方以外は絶対に行わないでください)

■ 本製品は、T-Engine フォーラム(www.t-engine.org)の T-License に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。
■ TRON は "The Real-time Operating system Nucleus" の略称です。
■ TRON, T-Kernel はコンピュータの仕様に対する名称であり、特定の商品を指すものではありません。

■ ディスクシュレッダー(R)、Disk Shredder(R)はパーソナルメディア株式会社の登録商標です。
■ 本取扱説明書に記載された内容は、製品改良などのため、予告なく変更されることがあります。

ディスクシュレッダー4 取扱説明書 2013 年 9 月 第 2 版発行
パーソナルメディア株式会社 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-29-1 コイズミビル
http://www.personal-media.co.jp/ http://www.disksh.com/

Copyright © 2001-2013 by Personal Media Corporation

ディスクシュレッダー4: ソフトウェア使用条件

重要: 開封前に必ずお読みください

(1) フロッピーディスクまたは CD-ROM(以下、メディアと呼びます)の包装を開封する前に、必ず下記の使用条件(以下、本使用条件と呼びます)をお読みください。

(2)お客様にご購入いただいた「ディスクシュレッダー4・ライト」「ディスクシュレッダー4・スタンダード」「ディスクシュレッダー4・スーパー」「ディスクシュレッダー4・XP」(以下、本ソフトウェアと呼びます)は、下記の条件をご承諾いただけた場合にのみ、ご利用いただけます。下記の条件をご承諾いただけない場合は、メディアの包装を開封する前に、パーソナルメディア株式会社(以下、PMC と呼びます)までご連絡ください。

(3) 理由のいかんを問わずメディアの包装を開封されたお客様は、下記の使用条件をご承諾されたものとみなします。

第 1 条(知的所有権)

1. お客様は、本パッケージに含まれているメディアを使用できますが、本ソフトウェアの知的所有権を所有するわけではありません。本ソフトウェアの知的所有権は、PMC、あるいは PMC へのソフトウェア供給者が所有しています。

第 2 条(利用許諾)

1. お客様は、本ソフトウェアを譲渡不能かつ非独占的に利用することができます。
2. 本ソフトウェアをご利用いただく回数の制限はありません。
3. お客様は、お客様が所属する組織の同一事業所内において利用する場合に限り、お客様の管理の下、お客様の指定する利用者によりお客様のデータを粉砕消去する目的で本ソフトウェアの利用を代行させることができます。
4. お客様は、お客様に正式に提供されている本ソフトウェアを収録したメディア 1 枚につき、同時に 1 台のコンピュータで本ソフトウェアを動作させることができます。複数台で同時に本ソフトウェアを動作させる必要がある場合は、その台数分だけ本ソフトウェアを購入してご利用ください。

第 3 条(禁止事項)

1. お客様は、PMC の文書による同意なしに、本ソフトウェアを複製すること(メディアからハードディスクへの複製、本ソフトウェアを含むアーカイブの作成、ネットワークへの送信などを含む)はできません。バックアップ目的による複製もできません。
2. お客様は、PMC の文書による同意なしに、本ソフトウェアに対する改変、リバースエンジニアリング、逆アセンブル等を行うことはできません。
3. お客様は、第 2 条第 3 項の場合を除き、PMC の文書による同意なしに、本ソフトウェアを第三者に使用させることはできません。また、本ソフトウェアを譲渡や転売したり、貸出業務に使用することもできません。

第 4 条(仕様変更と補修)

1. PMC は、お客様の事前の許可あるいはお客様への事前の通告なしに、本ソフトウェアの仕様変更、あるいは本ソフトウェアの製造および販売の中止を行う場合があります。
2. PMC は、本ソフトウェアの動作が付属の説明書等に合致しなかった場合に、ご購入から少なくとも 1 年間、その補修について努力します。

第 5 条(限定的保証)

1. PMC は、お客様に対し、フロッピーディスクラベル、またはユーザー登録番号シールに記載されている本ソフトウェアの発送月より翌年の同月末日までの間の無償保証期間中、本ソフトウェアの内容がメディアに正しく記録されていることを保証します。
2. 本ソフトウェアの内容がメディアに正しく記録されていなかった場合、あるいは本ソフトウェアの使用によりメディアが損傷した場合には、無償保証期間中に当該メディアを PMC にご返送いただくことにより、無償で代替品をお送りいたします。
3. 前項の無償保証は、使用説明書に従わない誤用・乱用、改変、故意による損傷の場合は適用されません。
4. 無償保証期間が経過した後にメディアが損傷した場合、当該メディアを PMC にご返送いただくことにより、その時点で別途 PMC の定める金額にて代替品をお送りいたします。なお、本ソフトウェアの販売が中止された場合には、お客様への事前の通告なしに、このお取り扱いを中止することがあります。
5. 本ソフトウェアに関する PMC の保証は、以上のみに限定します。

第 6 条(免責)

1. PMC は、本ソフトウェアの機能がお客様の要求を満たすこと、本ソフトウェアの運用が中断されないこと、およびその運用結果に誤りのないことを保証するものではありません。また、お客様に対して、本ソフトウェアが第三者の知的所有権を侵害しないこと、または永久に利用できることを保証するものではありません。
2. PMC は、本ソフトウェアの性能もしくは運用結果に関連して発生する直接的、間接的損害について、賠償責任を負わないものとします。ただし、国または地域によっては、法律の強行規定により、本条項の責任の制限が適用されない場合があります。

第 7 条(一般事項)

1. 本使用条件は、消費者保護法規によるお客様の権利を変更するものではありません。
2. 本使用条件においては、日本国法を管轄法とします。
3. 本使用条件の条項の一部が、法令の定めにより無効とされた場合も、他の条項は効力を有するものとします。
4. お客様と PMC との間で本使用条件について紛争が生じた場合、東京地方裁判所を第一審の専属管轄裁判所とします。
5. お客様は、外国為替及び外国貿易法等輸出規制に係わる法等において禁止されている国への本製品の輸出、出荷、移動を行わないものとします。

以上

ディスクシュレッダーのソフトウェア使用条件について

（FAQ 形式での補足情報）

パーソナルメディア株式会社

Q1. ディスクシュレッダーは、どのような形態で実行するソフトウェアですか? ハードディスクへのインストールを行うのでしょうか?

A1. ディスクシュレッダーは、フロッピーディスク(FD)または CD-ROM から起動して実行するソフトウェアです。ハードディスクへのインストールは必要ありませんが、データ消去の処理が終了するまで、対象パソコンの中に FD または CD-ROM を入れておく必要があります。

Q2. ディスクシュレッダー(FD 版)は、FD のみを使って動かすソフトウェアだそうですが、毎日何度も使用することにより、FD が損傷する心配はないのでしょうか?

A2. ハードディスクが普及する以前のパソコンでは、多くのパッケージソフトがフロッピーディスクから起動・実行する方法を採っていたにもかかわらず、実用上の大きな問題はありませんでした。また、ディスクシュレッダーは FD を読み出すだけで、書き込みは行いません。こういった点から、データ抹消パソコンのフロッピーディスクドライブ側に極端な問題がないかぎり、実用上の問題が生じるケースは少ないと思われます。また、万一問題があった場合にも、以下の A3.に記載したお取り扱いによりカバーできると存じます。

Q3. ディスクシュレッダーを実行する前に、FD または CD-ROM のバックアップを作ることはできるのでしょうか?

A3. ディスクシュレッダーの FD または CD-ROM を複製することは、バックアップの目的も含めて禁止されています。ただし、それを補う目的で、パーソナルメディア株式会社(以下、PMC)では損傷した FD または CD-ROM を良品と交換する体制を設けております。ご購入から 1 年間は無償、それ以降は有償で交換しております。

Q4. ディスクシュレッダーを 2 年目以降も使い続ける場合、FD または CD-ROM の損傷による交換を依頼するたびに費用を支払うのは繁雑です。年間定額の費用を支払うことにより、期間中は追加費用なしで FD または CD-ROM を交換できるような、保守契約の制度はないのでしょうか?

A4. 2 年目以降は、有償での保守契約が可能です。当社までお問い合わせください。

Q5. 損傷した FD または CD-ROM を交換する場合、交換の期間中はディスクシュレッダーを使えないのでしょうか?

A5. 代替となる FD または CD-ROM の送付は、PMC の通常の営業日の範囲で速やかに行いますが、郵送や入金確認に必要な日数も含めて、1 週間程度(大型連休や年末年始にかかる期間は 2 週間程度)のお時間をいただきますのでご了承ください。PMC は、本ソフトウェアの運用が中断されないことを保証するものではありません。なお、代替品の到着まで待てない可能性がある場合には、恐れ入りますが、作業効率の向上やバックアップ目的も含めて複数のディスクシュレッダーを購入されることをお勧めします。

Q6. データを抹消したいパソコンが多数存在する場合、どのような使い方をするのが良いでしょうか?

A6. ディスクシュレッダーのソフトウェアには、ご利用回数の制限はありませんが、1 本のソフトウェア(1 枚の FD または CD-ROM)に対して同時に処理できるパソコンは 1 台のみです。複数のパソコンを同時に処理される場合には、同時処理の必要な台数分だけディスクシュレッダーをご購入ください。ちなみに、データ消去の処理時間は、ハードウェアの性能やハードディスクドライブ(HDD)の容量、データの消去方式などに大きく依存しますが、大容量の HDD の場合には何時間もかかることがあります。

Q7. 同時使用およびバックアップの目的で、複数本のディスクシュレッダーを追加購入したいのですが、割引価格などの制度はあるのでしょうか?

A7. 一定本数以上のディスクシュレッダーを購入される場合には、割引価格でご提供いたします。お見積りを必要とされる場合には、当社までお問い合わせください。

Q8. ハードディスクの不良などにより、通常のソフトウェアによる書き込みができないセクターがあった場合は、どうなりますか?

A8. ディスクシュレッダーは、そのようなセクターをスキップして消去処理を続行し、処理の最後に、スキップしたセクターの総数を報告します。そのようなセクターの元データは抹消できていない可能性がありますので、ご注意ください。

Q9. パソコンのレンタル業務を行っているのですが、レンタルしたパソコンのデータ抹消に利用したいといったケースにおいて、ディスクシュレッダーの FD または CD-ROM をパソコンと一緒に貸し出し、レンタル先のお客様にディスクシュレッダーの実行を任せるという体制にしても構わないのでしょうか?

A9. ディスクシュレッダーのソフトウェア使用条件の第 2 条第 3 項には、「お客様が所属する組織の同一事業所内において」と明記されておりますし、第 3 条第 3 項の記載もありますので、PMC に無断でこのような使い方をすることはできません。ただし、レンタル業者様の事情を考慮した、一般向けパッケージとは別のライセンス条件や契約形態をご用意しております。当社までお気軽にお問い合わせください。

以上